

〈目次〉

〔診療科・部門紹介〕

- ▶▶ 病理部・病理診断科
- ▶▶ 消化器・乳腺甲状腺外科
- ▶▶ 救命救急センター
- ▶▶ メンタルケアセンター・神経科精神科
- ▶▶ 歯周病科
- ▶▶ リハビリテーション科

- 「助産師面談」のご案内
- 錦江湾魚ごよみ

理念

鹿児島大学病院は、21世紀に輝くヒューマン・トータルケア病院の構築を目指し、医療人の育成及び医学・歯学の研究の充実と発展に貢献すると共に、常に患者さん本位の原点に立った、質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、安心して安全な納得のいく治療を心がけます。
2. 質の高い医療、先進的医療の充実を図り、地域の中核的医療機関として貢献します。
3. 教育・研修病院として、地域の医療機関との連携を図り、人間性豊かな使命感にあふれる医療人を育成します。
4. 診療を通じてわが国の医学・歯学の研究を推進し、医学・歯学及び医療の国際貢献を目指します。
5. 安全で効率の高い病院運営体制を確立します。

患者さんの権利と責務

〈患者さんの権利〉

1. 良質な医療を公平に受ける権利
2. 人としての尊厳を尊重される権利
3. プライバシーや個人情報が保護される権利
4. 自分の状態や診療内容について説明と情報提供を受ける権利
5. 自分の意思で医療を選択する権利

〈患者さんの責務〉

1. 自分の健康状態についてできる限り正確な情報を提供する責務
2. 当院の規則を守り、迷惑行為を慎む責務
3. 診療費を速やかに支払う責務

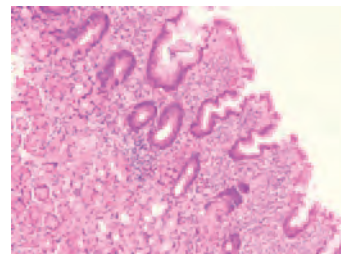
縁の下の力持ち

病理部・病理診断科

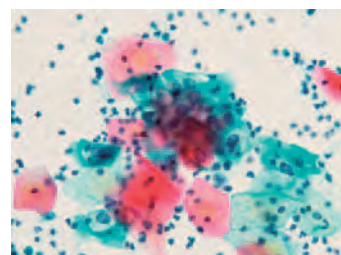
「病理検査とは？」と聞かれて、ピンと来る方はどのくらいいらっしゃるでしょうか？

病理検査(病理診断)とは、患者さんの病気の原因を探るために、内視鏡検査や手術などで取った組織を病理医が顕微鏡で観察して診断をすることです。文章ではあつという間ですが、組織を取ってから顕微鏡で診断できる状態にするまでにはいくつかの工程があり、診断に使用する標本(先生が顕微鏡で観察する“HE標本”をさします)が出来上がるまでには1日から数日かかるものもあります。どうして1日かかるかというと、取ったばかりの組織は生の状態なので、腐らないようにホルマリンという液体で固定し、薄く切れるように口ウで固めて、出来上がった検体(ブロックといいます)を3 μ m(1 μ mは1mmの1000分の1)の厚さで切り、スライドガラスに載せて色をつけます。細胞の核をヘマトキシリン、細胞質をエオジンという色素で染めることにより、組織は青と赤で染め出され(ヘマトキシリンとエオジンの頭文字をとってHE染色といいます)て、病気が良性の変化なのか、悪性なのか診断できます。その診断によって今後の治療方針が決定されるわけであり、極めて重要な役割を果たしています。

他にも、婦人科検診に代表される細胞診検査も実施しています。HPV感染異型細胞を前がん病変として見つけだすことができます。病理検査のことに興味を持っていただけたら見学へどうぞお越しください。



胃組織診:慢性胃炎

婦人科細胞診:前がん病変
(HPV感染異型細胞)腫瘍性病変に対する
個別化治療に注力

消化器・乳腺甲状腺外科

当科では、食道、胃、小腸、大腸の病気を扱う消化管外科、肝臓、胆のう・胆道、膵臓、脾臓の病気を扱う肝胆膵外科、腹壁疾患(ヘルニアなど)、乳腺外科、甲状腺外科の診断・治療を行っており、特に、腫瘍性病変に対する個別化治療に力を入れています。早期の腫瘍には低侵襲治療、進行した腫瘍には手術・化学療法・放射線療法を組み合わせた集学的治療をオーダーメイドで行っています。今回は、現在当科で行っている体にやさしい低侵襲手術を紹介します。

- ◎食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術
- ◎胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術
- ◎早期胃癌に対するセンチネルリンパ節理論に基づく縮小胃切除術
- ◎大腸癌に対する画像ナビゲーションと拡大視による精緻な腹腔鏡下手術
- ◎腹腔鏡下肝切除術
- ◎経済的アプローチによる傷が目立たず安全な腹腔鏡補助下臍体尾部切除術
- ◎頸部に傷を残さない甲状腺内視鏡手術 VANS法
- ◎高い整容性とOpen手術を凌駕する根治性 - 甲状腺癌に対する内視鏡手術
- ◎術前よりも美しく、患者さんの体型に合わせた乳房温存乳癌手術
- ◎乳房切除と乳房再建手術 インプラント・自家組織を用いた一次的、二次的乳房再建

〈初診受付〉消化器外科Ⅰ …月・水、受付時間／8:30-11:00 診療時間／9:00-17:00

乳腺甲状腺外科 …月～金(乳腺外来) 月・水(内分泌外来)、

受付時間／8:30-11:00 診療時間／8:30-17:00

鹿児島県の救急医療 地域医療を担う

救命救急センター

鹿児島県の救急専門医の数は明らかに少なく、鹿児島県の救急医療は他県と比べると大きく遅れているといわれています。これまで鹿児島大学には救急医学講座がなかったため、救急医を育てる地盤がなく、救急医を目指す若手医師は、県外へ去ってしまい、結果的に鹿児島県に救急医が残らないという悪循環に陥っていました。今から3年前(2011年5月)に鹿児島大学にも救急・集中治療医学分野(救急医学講座)が設立され、今年(2014年)の4月には鹿児島大学病院に救命救急センターがオープンしました。新病棟の屋上にはヘリポートも完成しました。ようやく、鹿児島県の重症患者を積極的に受け入れる体制が整いました。そして、医学生や研修医に、救急医療を教えることのできる研修体制も整ってきました。大学病院のいい点は、医学生や研修医に対して、臨床実習や救急診療を通して救急医療の醍醐味を教えることができることです。大学病院救命救急センターは重症患者(3次救急患者)を対象とした医療機関です。一方、軽症や中等症の救急患者(1・2次救急患者)に関しては、地域の医療機関において修練を積む必要があります。つまり、地域の医療機関と連携を取りながら若手の救急医を育てていく必要があります。それにより、鹿児島県の救急医療体制は大きく変わるものと思います。鹿児島大学救急・集中治療部は、若手救急医、集中治療医、総合診療医の育成に全力を注いでいます。数年後には彼らが鹿児島県の救急・地域医療を担う大きな力となり、地域の多くの医療機関で活躍することで、鹿児島県民の多くの命を助けることに繋がるものと期待しております。



こころの問題全般について 幅広く診療

メンタルケアセンター 神経科精神科

メンタルケアセンター・神経科精神科では、脳を原因とするものや、ストレスなどの社会・心理的な原因から生じるものなど、こころの問題全般について幅広く診療しています。

外来診療では主治医制を敷いており、平日は原則として火曜日を除いて診療を行っています。平成23年から外来は完全予約制となっており、原則としてかかりつけ医などからの紹介を通じて1日3~4名の初診を受け入れています。外来には老若男女、幅広く多彩な症状をもつ患者が受診されています。単に検査と薬だけの治療ではなく、一人一人について生活や環境なども視野に入れ、それらの調整や社会的資源の活用など総合的な診断と治療を行っています。平成26年からは「もの忘れ専門外来」もスタートしました。

病棟は平成25年秋に竣工した鹿児島大学病院の新病棟(C棟)2階に開放病棟と閉鎖病棟を備えています。入院診療も主治医制ですが、1グループ6~8名の医師からなる3つのグループによるチーム医療を実践しています。毎週月曜日にグループ別の症例検討を行い、毎週火曜日には入退院患者の報告と教授回診、症例検討や多彩な勉強会や研究会が開かれており、きめ細やかな対応や検討を行っています。

気が沈む、憂うつだ、何をしても楽しめない、集中力が無い、物忘れが多い、イライラする、漠然とした不安が続く、戸締まりが気になる、周囲の物事に敏感、手を洗わずにはいられない、会社や学校に馴染めないなど、こころの問題でお悩みの方は、是非一度ご相談下さい。

歯周治療による 糖尿病の改善

歯周病は歯面に付着した細菌からなる歯垢(プラーク)によって歯を支える組織が破壊される感染症です。歯周病の症状として歯肉の出血、腫脹、歯のぐらつき、食べ物がはさまる、口臭などがあり、最終的には歯の喪失につながります。しかし一般的には痛みを伴うことが少ないため放置され、かなり進行してから歯科医院を受診されることが多くあります。歯周病の治療内容は歯と歯肉の境目を適切に磨くブラッシング指導と歯石の除去が主となります。進行している場合には外科処置が必要となることがあります。

最近の研究によって歯周病は全身の健康に悪い影響を及ぼしていることが報告されています。糖尿病の患者さんは歯周病になりやすいため、歯周病は糖尿病の第6番目の合併症とされていますが、逆に歯周病の治療によって口腔内環境の改善とともに、血糖値が改善されることが示されています。2型糖尿病ではHbA1c値で平均約0.4%減少します。このように歯周病の治療によって口腔の健康回復だけでなく、全身の健康の改善につながることがあります。歯周病でお悩みの方は気兼ねなくご相談ください。

歯周病科

2型糖尿病を伴う慢性歯周炎症例



術前HbA1c値 8.2%



術後 HbA1c値 7.4%
歯肉の炎症だけでなく血糖値の改善が認められた。

がんの リハビリテーション

リハビリテーション科

「がんのリハビリテーション(以後、「がんリハ」と略します)」は、あまり聞き慣れない言葉かもしれませんが、がんを患うことや、その治療を行ったことによって体の機能や心の状態、ときには社会生活に様々な問題が生じることがありその問題を改善する方法の一つが「がんリハ」です。

医学の進歩によって、現代はもはや「がんは不治の病」の時代ではなく、「がんと共存する」時代と言われるようになりました。今後ますます「がんリハ」が必要になると言えるでしょう。

「がんリハ」ではがんの種類や治療内容、患者さんの状態などによって様々な対応を行います。たとえば肺がんが発見され切除手術が予定されている患者さんには、手術前から呼吸訓練を始めます。この訓練で手術後の肺炎などの合併症が少なくなったり、早く退院できるようになったりする効果があります。手術だけではなく、放射線や抗がん剤による治療によって生じる体力低下や倦怠感を始めとした副作用にも運動療法が有効であることがわかっています。これらの訓練はただ身体的な能力を向上させるだけでなく、不安やうつ、睡眠障害のような心理的な問題にも効果的です。また、末期のがんの患者さんにもマッサージや物理療法、運動療法などを行うことで、痛みをやわらげたり身体活動性が向上したりする効果もありますので、がんの患者さんにはいつでも「がんリハ」が有効な可能性があります。

鹿児島大学病院のリハビリテーション科でも、リハ医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、ソーシャルワーカーが協力し「がんリハ」を通じて、がんの患者さんの身体機能の維持・改善、日常生活の支援、こころのケアに取り組んでいます。



助産師の活動「助産師面談」のご案内

～産前から産後まで～

妊産婦さんが安心して過ごせるようにサポートします！

当院でお産をされる妊婦さんの約8割は合併症を抱えた方であり、みなさんたくさんの不安を抱かれています。

私たち助産師は、妊産婦さんの健診や精神的ケア、バースプラン作成に向けての相談、分娩介助、産後の育児指導や母乳管理など、幅広い分野で医師・メディカルソーシャルワーカー・地域の保健所などと連携を図りながら、妊産婦さんがいつでも安心して過ごせるようにサポートしています。

外来での妊婦健診で十分にお話しできないことや、母親学級での集団指導で浮かんだ不安や疑問などについて、助産師面談を活用し、相談してみませんか？

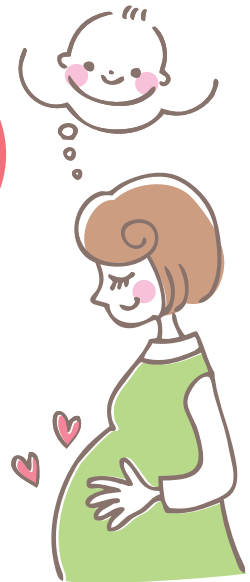
《助産師面談》

- 毎週水曜
- 場所：産婦人科外来
- 対象：大学病院で分娩予定の方

第2・3水曜日 ①10:00～11:00 ②11:00～12:00

第1・4水曜日 ①10:00～11:00 ②11:00～12:00
③13:30～14:30 ④14:30～15:30

助産師が1時間かけてゆっくりとお話を伺います。妊婦健診に合わせて行うこともできます。



赤ちゃんが
元気に産まれるか
心配……

誘導分娩って
どんな方法？

薬を飲んでいても
おっぱいをあげても
いいの？

NICUって
どんなところ？

妊娠中の体重は
どれくらいまで
増えてもいいの？

産後の
サポート体制が
知りたい



★その他、母親学級や産後の乳房外来なども行っていますので、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先
鹿児島大学病院 産婦人科外来
TEL 099-275-5888

深海魚との出会い

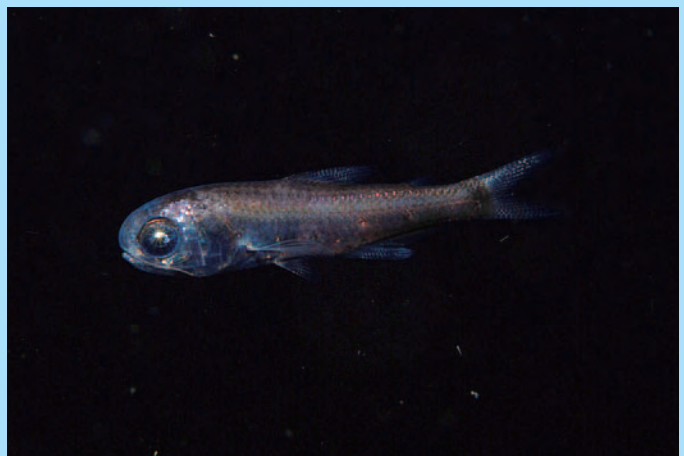
昨年から今年にかけては、深海生物が注目される年でした。日本各地でダイオウイカや、リュウグウノツカイなどの深海生物が続々と見つかり、大地震の前ぶれか？ などという憶測も飛び交い、日々メディアを賑わしました。実は、錦江湾にも深海魚は住んでいます。それも、生きた深海魚と生身で触れ合える貴重な場所なのです。桜島南岸、ほんの少しの浅瀬をすぎると、水深 150m を越える深みに一気に落ち込みます。この崖が人間の暮らす世界と、深海魚の暮らす世界との距離を縮めているのです。

深夜、真っ暗闇の海底の崖水深 30m、私は一人心細さをこらえながら、水中ライトの光芒を頼りに待ち続けました。下を覗き込んで、暗黒が口を開けるだけで何も見えません。

1 時間ほど経った頃、ついにその時がやってきました。銀色に輝く 5cm ほどの魚が猛スピードで泳ぎながら現れました。ハダカイワシの仲間たちです。昼間、錦江湾の深みで暮らす彼らが、深夜、餌であるプランクトンを求めて浅瀬に上がってくるのです。こんなに沢山の深海魚の泳ぐ姿を生身で見られるのは、錦江湾ならではです。

数十匹のハダカイワシが集まってきたところで、私は水中ライトを消しました。すると闇の中ひととき輝く緑色がかかった光の点が、闇の中を駆け回りました。それは、ハダカイワシの発光器が放つ光なのです。

私は深夜の海底で、一人その幻想的な光景に魅せられていました。深海への扉が開かれたような気がしたひと時でした。



鈍い銀色に輝く深海魚ハダカイワシの仲間、イワハダカ。

TOPICS

救命救急センターの開所に伴う 看板除幕式を開催

平成26年4月1日付けで県から救命救急センターとしての指定を受けました。

開所に伴う看板除幕式を4月1日11時より挙行し、熊本病院長、高松理事、有田医科副病院長、及び垣花救命救急センター長で看板除幕を行いました。

救命救急センターは、集中治療室(ICU) 15床に加え、救急部に10床を新設し、計25床を専従医13人、看護師71人体制で受け入れます。今年1月にC棟に整備した屋上ヘリポートを有効活用し、救急患者の受入態勢の充実を目指します。



広報誌編集部会からのお知らせ

鹿児島大学病院の診療内容、病気について的一般知識など知りたいことがありましたら、お知らせください。

また、「桜ヶ丘だより」への皆様方からのご意見・ご感想をお待ちしております。

鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより〈34号〉

2014(平成26)年7月発行

発行/鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692

【鹿児島大学病院ホームページアドレス】

<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>